

上島町消防だより

幼年消防クラブ退団式

平成20年2月2日～6日の間、各保育所において幼年消防クラブ退団式を行いました。式では、今年度における園児たちの防火啓発活動に対し、消防関係者よりお礼の言葉が贈られました。

また、防火ビデオの鑑賞や、節分にちなみ防火豆まきも行われ、火遊び好きの鬼を元氣いっぱい退治していました。



生名保育所



魚島保育所



岩城保育所

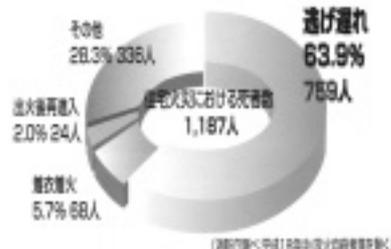


弓削保育所

大切な家族や家財を守る見張り番

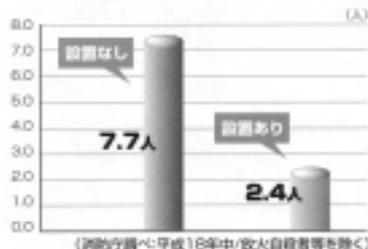
住宅用火災警報器を設置しましょう！

住宅火災の実態



毎年のように、日本各地で住宅火災による死者が1,000人以上発生しています。住宅火災による死亡原因は逃げ遅れによるものが多く、午後10時から午前5時までの就寝時間に、死者が多く発生しています。

設置による効果



住宅用火災警報器等の設置の有無でみた住宅火災100件当たりの死者数は3分の1程度に減少しています。火災を早期に見見し避難するために、住宅用火災警報器を設置しましょう。

悪質な訪問販売等にご注意を！

消防署や市区町村が、直接『住宅用火災警報器等』を訪問販売することはありません。おかしいと思ったら、はっきり断ってください。

平成21年出動件数

年別	摘要	火災	救急
平成21年(1月)		1	33
平成20年(1月)		0	30
昨年比		+1	+3
21年累計		1	33

平成21年1月31日現在

火災と救急は119番

※携帯電話からでもつながりますが、発信場所によっては、他の消防本部につながる場合もあります。

消防本部 77-4118(代)

春先は冬期にも増して空気が乾燥し、風も強く火災が発生しやすい気象条件となります。火災を未然に防ぐためには、町民のみならず一人ひとりの防火意識が大切です。この機会に各ご家庭で防火について話し合い、火災のない町づくりに努めましょう。



春季全国火災予防運動 3月1日～3月7日

平成20年度 全国统一防火標語

住宅用火災警報器に関するご質問は『上島町消防本部』か『住宅用火災警報器相談室』へ、お気軽にご相談ください。

住宅用火災警報器相談室（フリーダイヤル）
012015651911



農業 しまなみ農業だより

講座 剪定とは何なのか？

3月は果樹類の剪定シーズン。昔から剪定についてはあれこれ言われており、また切り間違えると収穫の不具合につながるとあって苦手意識をもたれている方も多いようです。ここでは紙面の都合から剪定法の各論は別の機会に譲るとして、果樹においてそもそも剪定とは何なのか、という基本の根っこのお話をします。

果樹結実の大原則

果実を得るためには枝に花を咲かせる必要があります、その着花は必ず前年に発生した枝にのみ見られる、という原則があります。この着花する予定の枝を結果母枝といい、一本の結果母枝の中でもどの部位に着花するかという決まりを結果習性と言います。品種・品目毎の剪定方法はこの結果習性によって変わってくる（本などで説明されているのはこの剪定法の各論にあたる）のですが、そもそも剪定の目的とはこの結果母枝をいかにして良好な状態で必要数確保するか、ということに尽きます。

落葉果樹の場合

落葉果樹は冬季に旧葉をすべて落としてしまいますので、春～秋の間に

発芽 — 開花 — 新梢（結果母枝）の発生と充実 — 果実肥大 — 翌年度用養分の貯蔵 — 落葉

このサイクルを終えねばなりません。すなわち、当年の果実肥大はすべて当年発生した新葉に頼っていますから、落葉果樹は必要以上に枝を発生させ当年（枝数が多いので結果として翌年も）の葉数を確保しようとします。この無駄な枝を徒長枝（適正結果母枝よりも長く強勢でほとんど着花が見られない）といい、落葉果樹の剪定では無駄な徒長枝を剪除し多すぎる結果母枝を整理することに主眼をおき、古枝の更新用としての予備枝は必要ですが、結果母枝を確保するための予備枝というのはあまり考える必要がありません。剪定の目的は当年の生産計画上不必要なところを除く、ということに特化されます。落葉果樹の春剪定は、当年の良好な収穫のため、と考えてください。

柑橘類（常緑果樹）の場合

柑橘の葉の寿命は1年半、つまり前年春に発生した葉は翌年の夏頃まであり、

発芽 — 開花 — 新梢（結果母枝）の発生 — . . .

あたりまでは貯蔵養分と旧葉（前年の葉）の働きによっておこなわれますので、葉と初期成育の関係は落葉果樹に比べ余裕があります。旧葉も新葉の5分の1程度の光合成をしながら生育後期に向け緩やかに葉の新旧が交代していくことから、無駄な新梢というのは落葉果樹に比べ少ないように思います。樹勢中庸で花と芽のバランスの取れた良く成るみかん樹はあまり剪定しないほうがよい、といわれるゆえんであり、こういう樹では込み合ったところを間引く程度の剪定で良いです。ところが柑橘では隔年結果という現象があり、着生した果実は付近の枝の花芽形成を阻害する、という働きがあります。そのため連年安定結実のためには、樹冠内に着果負担がなく良好な新梢が多数発生した部位（つまり翌年の結果母枝）を設定してやらなければなりません。柑橘の場合夏梢も着花しますが、数量、着花性ともに安定しているのはやはり春梢ですから、翌年の結果母枝としての春梢を確保する（発生させる）必要があります。幸い柑橘には枝を切るとそこから新梢が発生するという性質を持ちますので、剪定を行うのは予備枝、つまり翌年の結果母枝が欲しいところ、ということになります。柑橘の剪定では込み合ったところを除く、という当年の結果のためだけでなく、むしろ翌年の結果母枝確保、つまり翌年の結果のため、という側面が重要であることに留意してください。柑橘の春剪定は翌年の良好な収穫のため、と考えることが必要です。ですから例えば隔年結果樹では、特に表年時、多すぎる結果母枝を除くと同時に春梢を確保するための細かく丁寧な剪定が必要だ、ということです。

以上が剪定という作業の基本理念です。これから切ろうとする樹に対峙した時、落葉果樹では今年の結実時の様子を想像すること、柑橘類では結実した時の翌年の結果母枝の様子を想像し、その姿に向かって作業を進めていくことが必要となります。